

江戸時代の宿泊施設

◆本陣（ほんじん）

大名・公家・幕府役人などが宿泊したり、休憩するための施設。平屋建を原則とするが、ほかの旅籠屋と違い、門・玄関・上段の間などを造ることが許されていた。

◆脇本陣（わきほんじん）

本陣の補助の旅舎で、副本陣にあたる。平常、旅籠屋を営んでいるが、大通行のときなど、本陣の利用が重なった場合には本陣の代わりをつとめた。

脇本陣には本陣と同じく宿場の有力者が選ばれ、江戸時代中期以降に出現した。大旅籠を改造、転化したものが多く、そのため二階建の場合が少ない。また、本陣と同様に門構・玄関の両方か、あるいは一方を構えた。

◆旅籠屋（はたごや）

武士や一般庶民を宿泊させた食事付きの旅宿。

◆木賃宿（きちんやど）

旅人が薪代を払って自炊する宿屋。

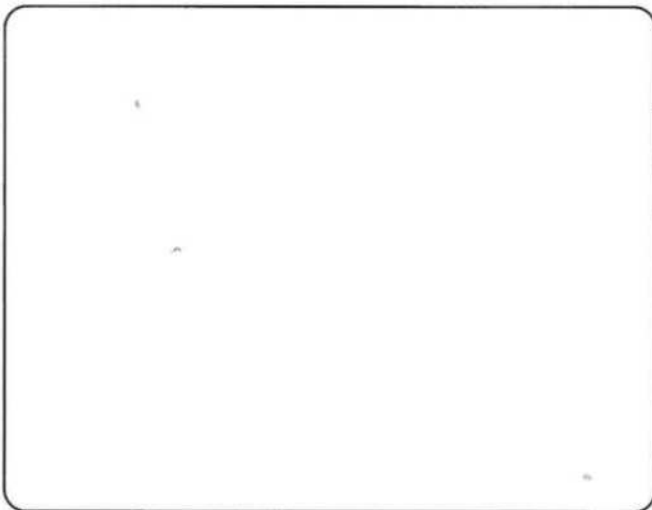


大正時代、役場として利用（大正2年撮影）
資料提供：片山研二氏（西町）

●交通案内●



- JR 井天島駅より徒歩10分
- 開館時間／午前9時～午後4時
- 休館日／毎週月曜日（ただし、祝日又は振替休日の場合は翌日）年末年始
- 入館料／無料
- 駐車場／8台（大型バスは除く）



● 問い合わせ先

舞坂宿脇本陣

〒431-0211 浜松市中央区舞坂町舞坂2091番地 ☎(053)596-3715

浜松市中央区西行政センター

〒431-0193 浜松市中央区雄略一丁目31番1号 ☎(053)597-1117



舞坂宿脇本陣

江戸時代、東海道舞坂宿は江戸から30番目の宿場にあたり、東西交通を結ぶ今切渡しの渡船場でした。今日、当時をしのぶ町並みは失われてしまいましたが、天保9年（1838）建築の旧脇本陣「茗荷屋」の上段の間があった書院棟が残されていました。旧東海道では唯一の脇本陣の遺構です。この貴重な脇本陣を後世に伝えようと、建物を復元しました。

書院棟の上段の間



天保9年作製の鬼瓦



横山村（現湖西市）瓦師政右衛門作

脇本陣の間取り
(復元)

● 2階



脇本陣の全景



● 1階



文久2年（1862）の舞坂宿絵図（宿の西端部分）



北
高札場△
本雁木
○常夜燈

